

野多目A遺跡 5

—野多目A遺跡群第6次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第603集

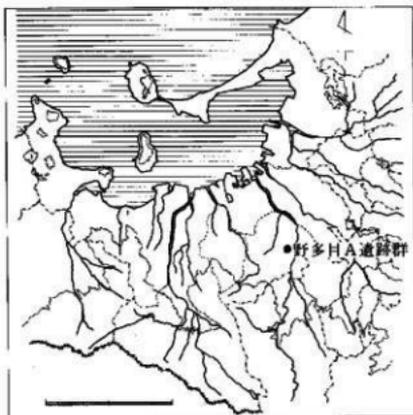
1999

福岡市教育委員会

野多目A遺跡 5

— 野多目A遺跡群第6次調査報告 —

福岡市埋藏文化財調査報告書 第603集



遺跡略号 MNA-6
遺跡調査番号 9737

1999

福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化の門戸として栄えた福岡市内には多くの遺跡が残されています。

近年の大小の再開発に伴い破壊を免れないものについては、やむを得ず記録保存のための緊急調査を行ってきました。失われていった遺跡とひきかえに新たな知見が得られています。

本書は共同住宅建設に伴って実施された野多日A遺跡第6次調査を報告するものです。調査では中世の集落、墳墓、さらには旧石器時代の遺物が多く出土するなど、非常に興味深い成果を納めています。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた平成建設株式会社の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成11年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 町 田 英 俊

例 言

1. 本書は共同住宅建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成9(1997)年度に発掘調査を実施した福岡市南区和田1丁目512-10他所在の野多目A遺跡第6次調査の報告である。
2. 本書に掲載した遺構の実測は古閑真理子、吉田恵美の他、担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎が行った。撮影は佐藤一郎があたった。遺物の実測は石器を埋蔵文化財課山口謙治が行った。
3. 製図は藤村佳公恵、山口朱美が行った。
4. 本書の執筆は石器の頁を山口、他および編集は佐藤が行った。
5. 本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調査番号	9737		遺跡略号	NMA-6	
調査地地籍	福岡市南区和田1丁目512-10他		分布地図番号	三宅39	
開発面積	1,582.73㎡	対象面積	980㎡	調査面積	726.5㎡
調査期間	1997(平成9)年8月26日~10月22日				

本文目次

I. はじめに	
1 調査にいたる経過	1
2 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
III. 発掘調査の概要	6
IV. 遺構と遺物	7
1 検出遺構	7
2 出土遺物	13
V. 小結	12

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	3
第2図 野多目遺跡群発掘調査地域図	4
第3図 野多目A遺跡群第6次調査周辺地域図	5
第4図 野多目A遺跡群第6次調査遺構配置図	折込み
第5図 掘立柱建物実測図(1)	7
第6図 掘立柱建物実測図(2)	8
第7図 掘立柱建物実測図(3)	9
第8図 掘立柱建物実測図(4)	10
第9図 SX03土壇墓実測図	11
第10図 柱穴・ビット状遺構実測図	11
第11図 集石遺構実測図	13
第12図 先土器時代石器実測図	14
第13図 先土器時代遺物出土状況	15

図 版 目 次

- 図版 1 (1) 野多目A遺跡群第6次調査区全景 (南から)
(2) 野多目A遺跡群第6次調査区全景 (東から)
- 図版 2 (1) 野多目A遺跡群第6次調査区北東 (西から)
(2) SX03上墳墓 (南から)
- 図版 3 (1) SA01柱列 (南東から)
(2) Pit04 柱穴上層 (南西から)
(3) 集石遺構 (南から)
(4) 調査区北旧石器包含層遺物出土状況 (北西から)

I はじめに

1 調査にいたる経過

1997（平成9）年6月10日、的野征夫氏から本市に対して南区和田1丁目512-2.他における共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の事前審査の申請がなされた。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの野多目A遺跡群の北西端に位置し、共同住宅建設に伴う第3次調査区の北に接する平地である。福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、これを受けて1997（平成9）年6月23日に試掘調査を実施した。現況は水田面から130cm程盛上をしており、駐車場として使用されている。調査の結果、水田耕作土（暗灰褐色土）直下で遺構が確認された。遺構の覆土には黒褐色土、褐色土等複数みられる。その後、施主・施工となる平成建設株式会社と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積1,582.73㎡の内工事で破壊を受ける建物部分980㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。平成建設株式会社と福岡市との間に発掘調査および資料整理に関する受託契約を締結し、調査は同年8月26日から10月22日まで行われた。

2 調査の組織

調査委託 平成建設株式会社

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝（前任） 柳田純孝
第2係長 山口謙治

庶務担当 河野淳美（前任） 谷口真由美

調査担当 試掘調査 松村道博 屋山洋
発掘調査 佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者 尾花恵吾・楠本純次・中村米重・糸山亜樹・奥山弘子・尾崎真佐子・兼田ミヤ子・河津信子・桑原美津子・古閑真理子・古賀美恵子・後藤タミ子・高手与志子・為房紋子・砥板春美・野口リュウ子・橋口真由美・播磨博子・福田友子・藤野洋子・松浦滋子・山口慶子・山崎久美子・吉住シツエ・吉田恵美・相川和子・田中ヤス子・藤野邦子・藤村佳公恵

その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について平成建設株式会社の方々をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

II 遺跡の位置と環境

野多目A遺跡群は福岡平野を北流する那珂川西岸中流域に形成された河岸段丘状に位置する。那珂川西岸には浸食による残丘や沖積微高地が多々形成され、近年の発掘調査等によりこれらの上に大小の遺跡の存在が明らかになってきている。

野多目A遺跡群は野多目小学校建設に伴う調査を嚆矢として、現在までに6次にわたって発掘調査が行われている。周辺においても野多目B・C・D遺跡群、利田B遺跡群で調査が行われ、その土地利用のあり方について次第と明らかになってきている(第1表参照)。開始は旧石器時代に遡り、野多目C遺跡群では三稜尖頭器・台形石器などが出土している。縄文時代中期～後期初頭および晩期には貯蔵穴が、稲作開始期には水田を伴う集落が形成されている。集落はその後、発掘調査で検出された限りでは、弥生時代前期末～中期初頭、弥生時代終末～古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、中世前半、中世末～近世初頭にそれぞれ営まれていることが明らかになっている。以下、野多目A～D遺跡群のこれまでの調査の概要を記す。

野多目A遺跡群

第1次調査では、古代の溝、13～14世紀の水田(溝、井堰、標)が検出され、内行花文鏡、古墳時代の祭祀遺物(ミニチュア土器、土製模造鏡、土製勾玉・玉類)、古代の瓦・墨書土器、中世の輸入陶磁器などが出土している。第2次調査では、弥生時代開始期(突帯文土器単純期)の水田(水路、井堰、水口、土壕等)、中世の溝・掘立柱建物が発掘されている。本報告第6次調査地の南側に位置する第3次調査では、中世の溝・掘立柱建物、近世の溝が発掘されている。第4次調査では、弥生時代終末～古墳時代初頭の掘立柱建物・竪穴住居から構成される集落、古墳時代後期の溝状遺構、古代の包含層、中世末～近世初頭の集落(掘立柱建物・溝・土壕)が発掘されている。

野多目B遺跡群

第1次調査では、縄文時代後期前半の旧河川・溝状遺構、弥生時代前期の水田に伴う水路、8世紀代の土壇を検出し、各時代の土器・石器の他、縄文時代の堅果類等が出土した。

野多目C遺跡群

第1次調査では、旧石器時代の包含層、縄文時代中～後期の貯蔵穴・溝・河川、弥生時代前期末～中期初頭の住居跡・竪穴、古墳時代の住居跡、古代(7～9世紀)の掘立柱建物などが確認された。公園建設に伴う調査で、盛土保存されることとなったため、遺構平面形の確認に留めている。第2次調査では、縄文時代中期後半～後期初頭の貯蔵穴、古墳時代のピット群(床面まで削平された竪穴住居跡)・溝、古代の流路等が発掘された。第3次調査では、縄文時代晩期の貯蔵穴・溝状遺構・河川、中世の溝状遺構を掘出し、土器・石器の他、イチイガシを主とする堅果類が多量に出土した。第4次調査では、縄文時代後期初頭の貯蔵穴・流路、古代の土壇、古墳時代～古代の遺物包含層を確認し、阿高式系土器を中心として縄文土器がまとまって出土した。

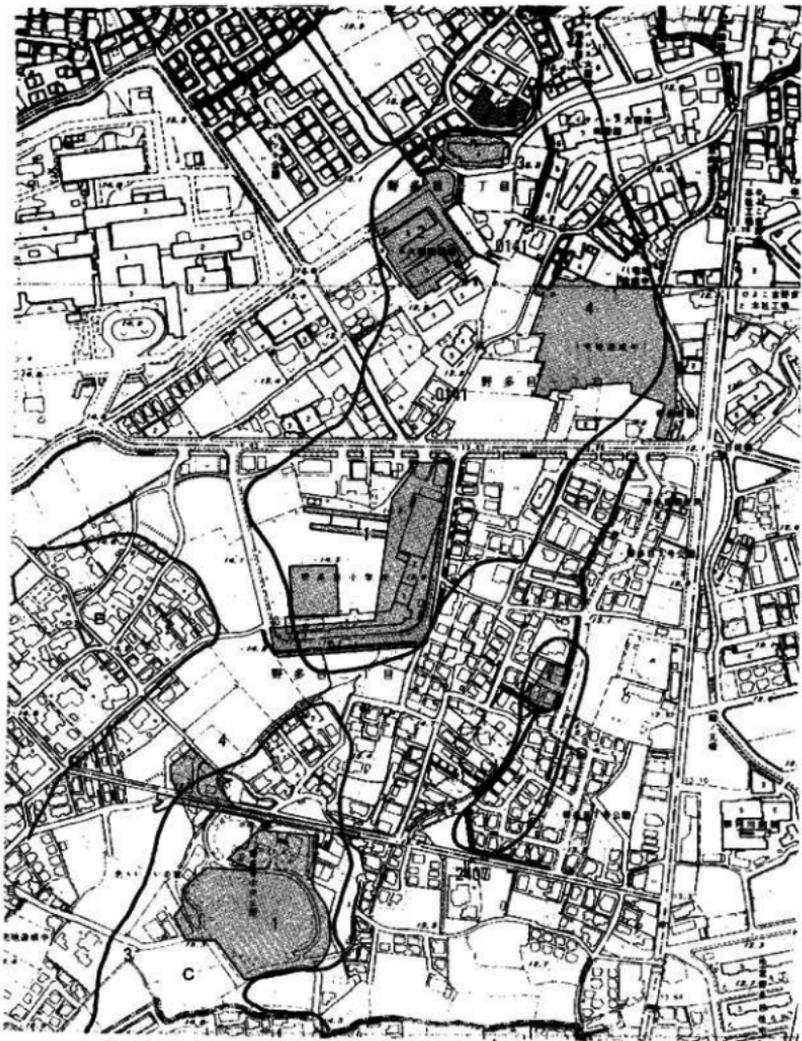
野多目D遺跡群

第1次調査では、古代の溝3条、17～18世紀の溝1条が発掘され、土師器・須恵器、近世陶磁器のほか古代の瓦等が出土した。



1. 野多目A遺跡群第6次調査地点
2. 野多目A遺跡群
3. 高宮B遺跡
4. 中村町遺跡
5. 野間A遺跡
6. 野間B遺跡
7. 若久A遺跡
8. 若久遺跡
9. 大橋A遺跡
10. 大橋B遺跡
11. 大橋C遺跡
12. 大橋D遺跡
13. 大橋E遺跡
14. 和田多藏池遺跡
15. 三宅A遺跡・三宅院寺
16. 三宅B遺跡
17. 三宅C遺跡
18. 和川A遺跡群
19. 和川B遺跡群
20. 野多目浦ノ池遺跡
21. 野多目B遺跡群
22. 野多目C遺跡群
23. 野多目D遺跡群
24. 屋形原遺跡
25. 花畑C遺跡
26. 卯内尺古墳群
27. 老司A遺跡
28. 老司B遺跡
29. 老司瓦窯跡
30. 老松神社古墳群
31. 老司古墳
32. 四十塚古墳群A遺跡
33. 中尾古墳
34. 老司池D遺跡
35. 野口遺跡
36. 鶴岡遺跡
37. 浦ノ田4号墳
38. 老司池A遺跡
39. 観音堂遺跡群
40. 那珂遺跡群・五十川遺跡群
41. 井尻A遺跡
42. 鎌岡A遺跡群
43. 井尻B遺跡群・井尻大塚古墳・井尻院寺
44. 井尻C遺跡群
45. 懐手遺跡群
46. 寺島遺跡群
47. H佐遺跡群
48. F.H佐遺跡群
49. 須玖遺跡群
50. 弥永原遺跡群
51. 醫弥郷A遺跡群
52. 醫弥郷B遺跡群
53. 弥永遺跡群
54. 下白水人塚古墳
55. 日押塚古墳
56. 柏田遺跡

第1図 周辺遺跡分布図



A 野多目A遺跡群 B 野多目B遺跡群 C 野多目C遺跡群
 D 野多目D遺跡群 E 三宅B遺跡
 (遺跡内の番号は各遺跡の調査次数を示す)

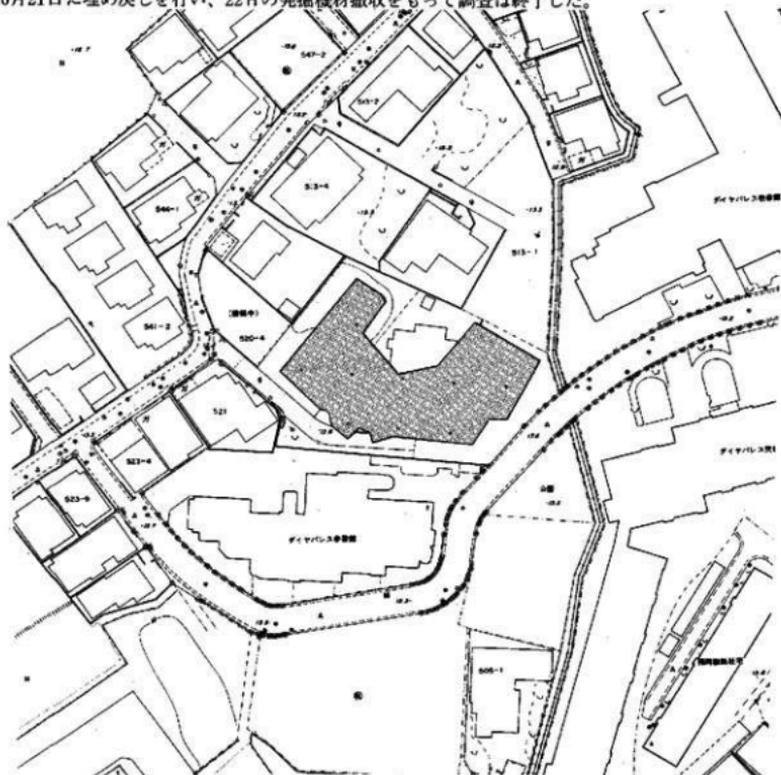
第2図 野多目遺跡群発掘調査地域図

遺跡名(次数)	調査	調査面積	所在地	調査報告書
野多目A(1)	7942	3,130㎡	南区野多目 2丁目6	福岡市教育委員会1982 『野多目前田遺跡調査概報』 埋蔵文化財調査報告書第85集 福岡市教育委員会1987
野多目A(2)	8443	5,000㎡	南区野多目 1丁目15	『野多目遺跡群—稲作開始期の水田跡の調査—』 埋蔵文化財調査報告書第159集 福岡市教育委員会1991
野多目A(3)	8956	2,000㎡	南区野多目 1丁目	『野多目A—野多目A遺跡群第3次調査報告—』 埋蔵文化財調査報告書第263集 福岡市教育委員会1997
野多目A(4)	9514	6687㎡	南区野多目 1丁目	『野多目A遺跡群4』 埋蔵文化財調査報告書第527集
野多目A(5)	95	2,900㎡	南区野多目 1丁目	福岡市教育委員会1999
野多目A(6)	9737	9,000㎡	南区和田 1-512-1他	『野多目A遺跡群5』 埋蔵文化財調査報告書第603集 福岡市教育委員会1995
野多目B(1)	9313	2,900㎡	南区野多目 3-595-7他	『野多目台—野多目B・和田B遺跡第1次調査』 埋蔵文化財調査報告書第413集 福岡市教育委員会1983
野多目C(1)	8022	680㎡	南区野多目 4丁目10	『野多目拈渡遺跡』 埋蔵文化財調査報告書第93集 福岡市教育委員会1986
野多目C(2)	8445	11,000㎡	南区野多目 地内	『野多目拈渡遺跡II』 埋蔵文化財調査報告書第136集 福岡市教育委員会1987
野多目C(3)	8446	200㎡	南区野多目 地内	『野多目拈渡遺跡III』 埋蔵文化財調査報告書第160集 福岡市教育委員会1993
野多目C(4)	9121	150㎡	南区野多目 2-274-1	『野多目拈渡遺跡4』 埋蔵文化財調査報告書第333集 福岡市教育委員会1984
野多目D(1)	8135		南区野多目 4丁目	『野多目古屋敷遺跡—公団野多目団地建設に』 埋蔵文化財調査報告書第103集

表1 野多目遺跡群発掘調査一覧

III 発掘調査の概要

野目A遺跡第6次調査区は野目A遺跡の北西端に位置し、標高13m前後を測る。第3次調査区の北側に隣接する。現況は水田面に1.3mほど客土が盛られており、施工業者による客土掘取り、外部撤出の後、調査は8月27日にバックホーによる表土剥ぎから開始し、排土はコの字形の調査対称区域外で処理することとし、調査区を東西に分け先ず西側から調査、10月6日に調査区の一部西側を残して反転を行った。検出された遺構は13世紀前後の掘立柱建物11棟、土墳墓1基、溝2条、集石遺構等である。また調査区の北端部では旧石器時代の遺物包含層を確認した。溝2条は第3次調査で検出された溝の延長に相当する。土墳墓は調査区の北西部で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、全長2.0m、幅1.0m、深さは最深部で45cmを測る。墓墳の北端で供献の土師器杯2が底面より5cm浮いた状態で出土した。調査区の北西部では集石遺構を検出した。直径30cmの範囲に拳大の礫が集め置かれていた。その3m北で旧石器時代（細石刃）の遺物包含層を確認した。集石遺構もその時代の遺構である可能性がある。遺物は径5m、厚さ20cmの範囲に密集していた。遺構の写真撮影・実測を終え、10月21日に埋め戻しを行い、22日の発掘機材撤収をもって調査は終了した。



第3図 野目A遺跡群第6次調査周辺地域図



第4図 野多目A遺跡群第6次調査遺構配置図

IV 検出遺構

掘立柱建物

SB01 (第5図、図版1) 調査区の北東部で検出した。梁間2間、桁行3間以上の南北棟の建物である。梁間全長5.0mを測り、建物の北側は調査区域外にのび、桁行の全長は不明である。柱穴は円形で、径20~30cm、深さ10~20cmを測る。方位はほぼ真北にとる。

SB02 (第5図、図版1) 調査区の東側で検出した。梁間2間、桁行3間の建物である。梁間全長4.4m、桁行の全長6.4mを測る。柱穴は円形で、径25~30cm、深さ8~20cmを測る。方位は西偏45°にとる。

SB03 (第6図、図版1) 調査区の中央で検出した。梁間2間、桁行3間の東西棟の建物である。梁間全長5.2m、桁行の全長7.6mを測る。柱穴は円形で、径20~40cm、深さ36~40cmを測る。方位は西偏45°にとる。

SB04 (第7図、図版1) 調査区の北東部SB01の南側で検出した。梁間1間、桁行2間の東西棟の建物である。梁間全長5.8m、桁行の全長8.4mを測る。柱穴は円形で、径28~32cm、深さ15~20cmを測る。方位は西偏45°にとる。

SB05 (第7図、図版1) 調査区の南東部で検出した。梁間2間、桁行3間以上の南北棟の建物である。梁間全長2.6mを測り、建物の南西側は調査区域外にのび、桁行の全長は不明である。柱穴は円形で、径16~28cm、深さ8~40cmを測る。方位は西偏20°にとる。

SB06 (第7図、図版1) 調査区の中央で検出した。梁間1間以上、桁行3間の東西棟の建物である。桁行全長3.0mを測り、建物の北側は調査区域外にのび、梁間の全長は不明である。柱穴は円形で、径20~30cm、深さ8~40cmを測る。方位は東偏15°にとる。

SB07 (第7図、図版1) 調査区の南東部で検出した。梁間2間、桁行2間以上の東西棟の建物である。梁間全長2.0mを測り、建物の東側は調査区域外にのび、桁行の全長は不明である。柱穴は円形で、径16~28cm、深さ8~24cmを測る。方位は東偏45°にとる。

SB08 (第8図、図版1) 調査区の南中央で検出した。梁間1間以上、桁行3間の東西棟の建物である。桁行全長6.4mを測り、建物の南側は調査区域外にのび、梁間の全長は不明である。柱穴は円形で、径16~28cm、深さ8~20cmを測る。方位はSB06と同じく東偏15°にとる。

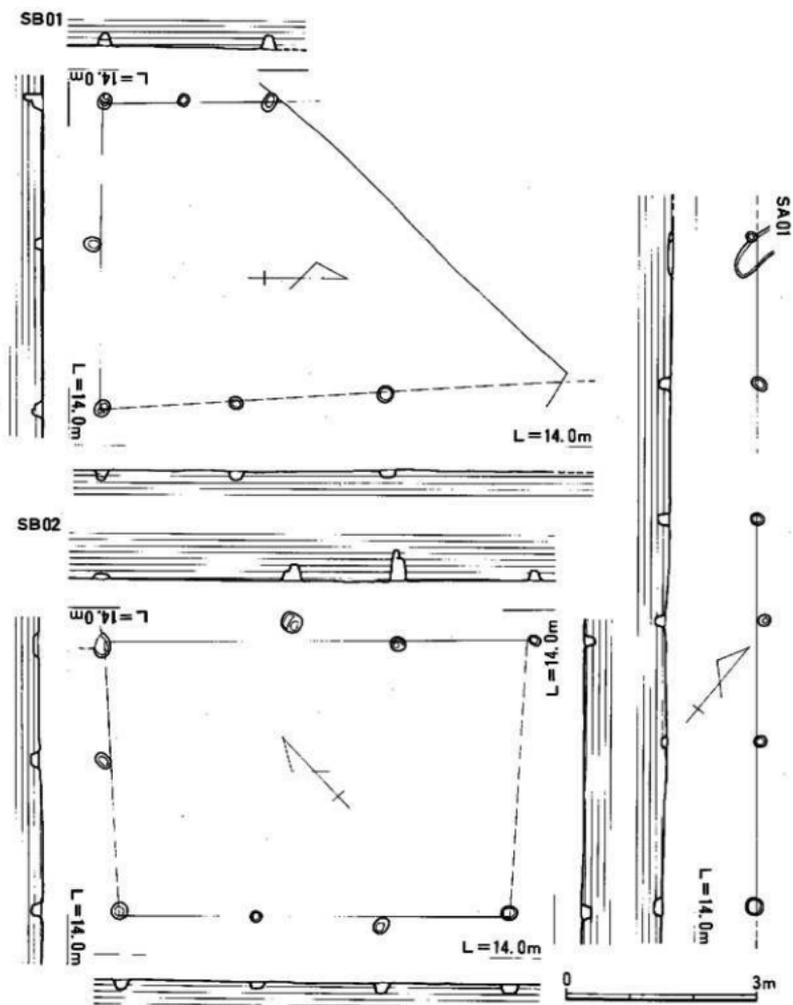
SB09 (第8図、図版1) 調査区の南中央で検出した。梁間1間以上、桁行3間の建物である。桁行全長4.0mを測り、建物の南西は調査区域外にのび、梁間の全長は不明である。柱穴は円形で、径16~28cm、深さ6~16cmを測る。方位は東偏45°にとる。

SB10 (第8図、図版1) 調査区の南中央で、SB09と重複して検出した。梁間2間、桁行2間以上の建物である。梁間全長4.4mを測り、建物の南西は調査区域外にのび、桁行の全長は不明である。柱穴は円形で、径12~32cm、深さ8~14cmを測る。方位はSB07・09と同じく東偏45°にとる。

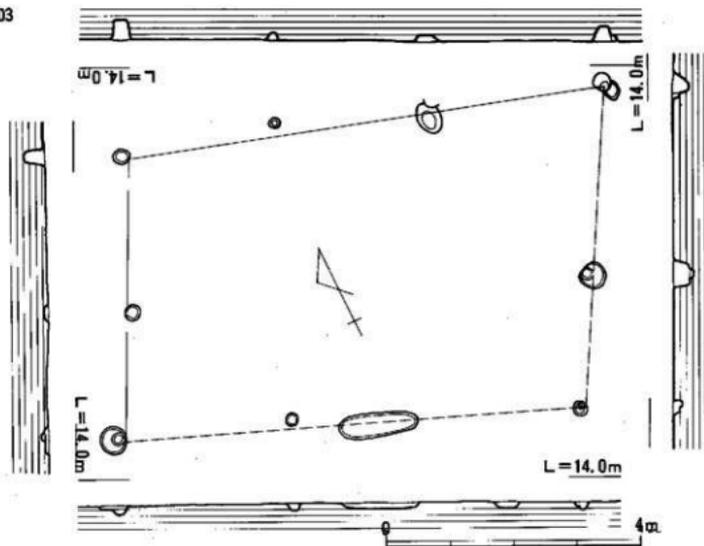
SB11 (第8図、図版1) 調査区の中央で検出した。梁間2間、桁行3間の南北棟の建物である。梁間全長2.4m、桁行の全長5.6mを測る。柱穴は円形で、径12~24cm、深さ6~12cmを測る。建物を構成する柱穴の内、北東の1個は調査区域外で未検出である。方位はSB03と同じく東偏45°にとる。

柱列

SA01 (第10図、図版3) 調査区の北東部で検出した。当初、掘立柱建物と考え、調査区域を一部拡張し続く柱穴の検出を試みたが、2個の柱穴のみで構成されることが判明した。柱穴間の距離は2.4mを測る。柱穴の平面形は隅丸方形を呈し、径50~60cm、深さ40~55cmを測る。南側の柱穴で径15cm



第5图 掘立柱建物实测图(1)



第8図 掘立柱建物実測図(2)

の柱痕跡を検出した。方位は西偏15°にとる。二脚門、鳥居等の機能が考えられようか。

SA02 (第5図、図版1) 調査区の北東部に検出した。調査区内では柱穴8個、7間分を検出した。柱間の間隔は1.8~2.4mを測り、柱列の北西および南西は調査区域外にのびる。延長10.8m検出した。柱穴は円形で、径20~30cm、深さ10~20cmを測る。方位は東偏45°にとり、掘立柱建物SB07・09・10と同じくする。

溝 溝2条は第3次調査で検出された溝の延長に相当する。

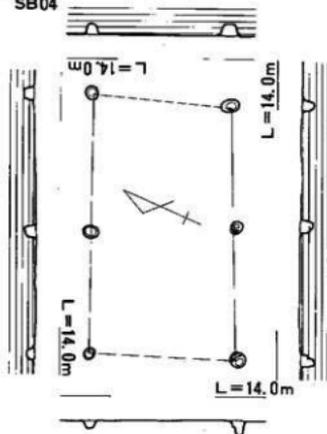
SD01 (第4図、図版1) 調査区の西側を南北に走る。残存する上面幅1.4~1.7m、深さ10~20cm、底面幅0.9~1.0cmを測る断面逆台形の溝である。方位は東偏15°にとり、掘立柱建物SB06・08と同じくする。調査区域では延長14m検出した。

SD02 (第4図、図版1) 調査区の西側を南北にSD01平行に走る。残存する上面幅45~60cm、深さ15~20cm、底面幅15~25cmを測る断面逆台形の溝である。調査区域では延長16m検出した。

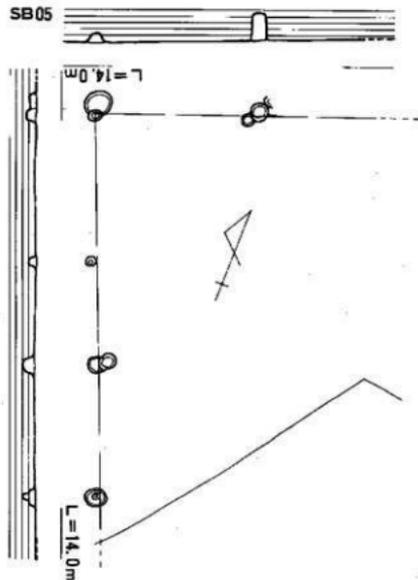
土墳墓

SX03 (第9図、図版2) 調査区の北西部で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、全長2.0m、幅1.0m、深さは最深部で45cmを測る。壁は斜めに立ち上がり、南側へ浅くテラス状に三段に掘られている。墓壇の北端で供献の上師器杯2が底面より5cm浮いた状態で出土したが、残念なことに心無い市民によって持ち去られてしまった。方位は東偏15°にとり、掘立柱建物SB06・08・溝SD01・02と同じくする。

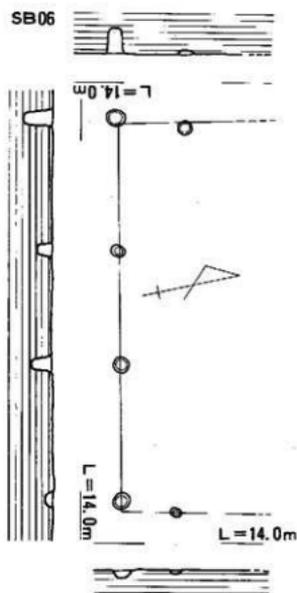
SB04



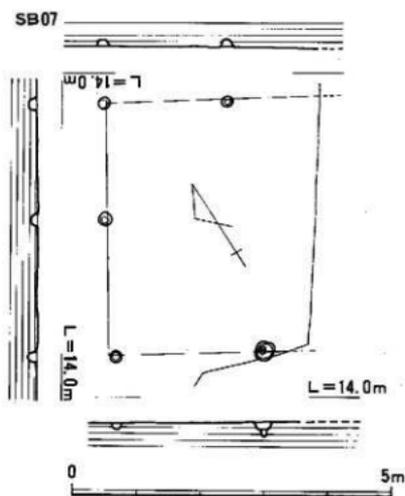
SB05



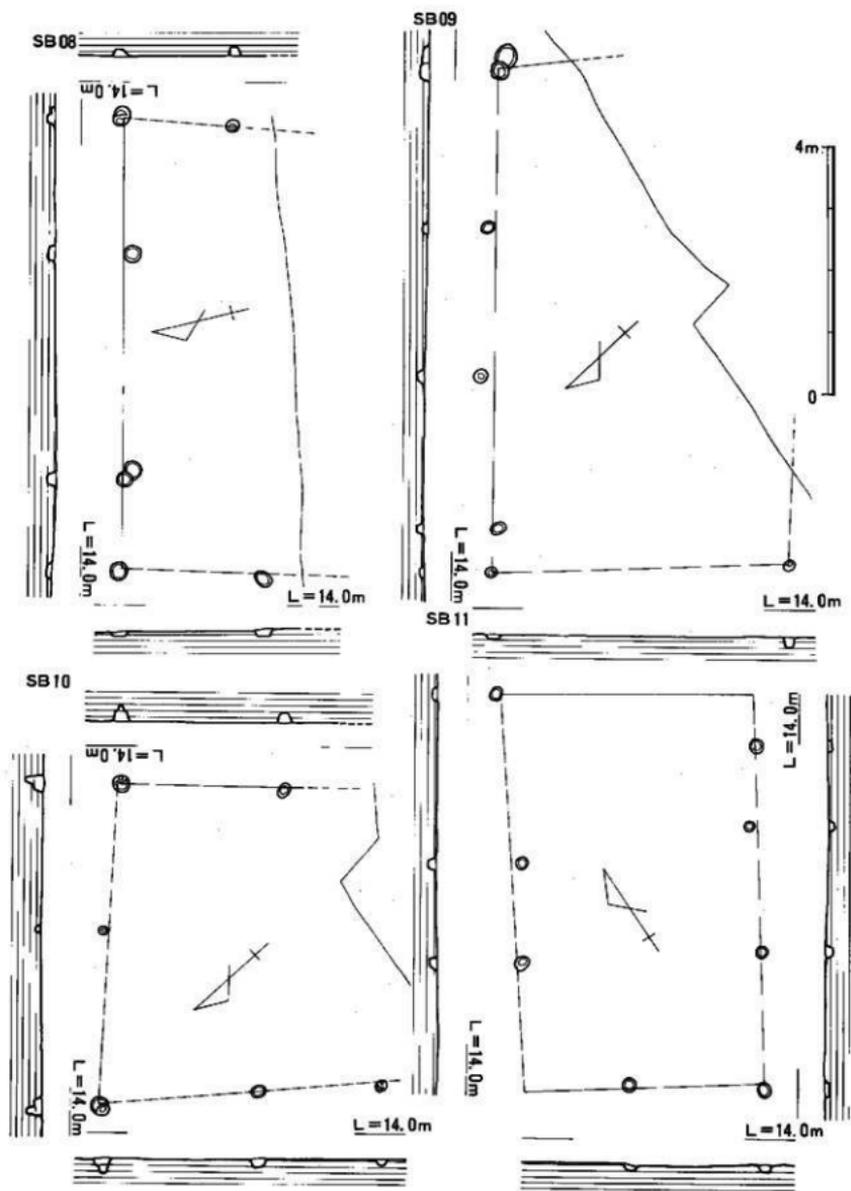
SB06



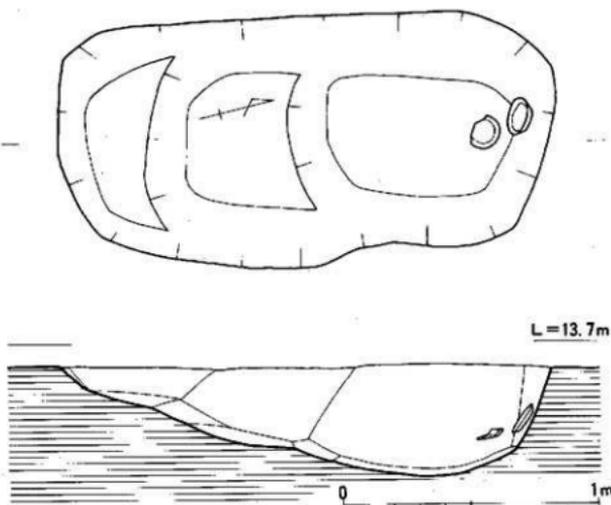
SB07



第7图 孤立柱建物实测图(3)



第8图 独立柱建筑物实测图(4)



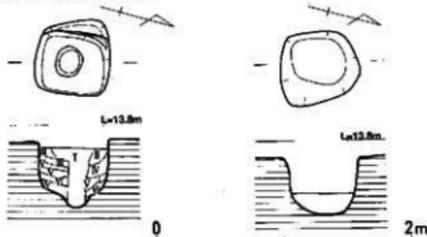
第9図 SX03土壌墓実測図

V 小結

中世の遺構については遺構のとり方から4つのグループに分類できる。N-15°-Eに方位をとる掘立柱建物SB06・08、柱列SA01、溝SD01・02、土壌墓SX03、ほぼ真北に方位をとる掘立柱建物SB01、N-20°-Wに方位をとる掘立柱建物SB05、N-45°-Wに方位をとる掘立柱建物SB02・03・04・07・09・10・11、柱列SA02である。第3次調査では中世の遺構について遺構の切り合い関係、方位からIII期に編年を行っている。N-20°-W前後に方位をとる遺構をI期、ほぼ南北に方位をとる遺構をII・III期とする。第6次調査で検出されたN-15°-Eに方位をとる遺構の内、溝SD01・02は第3次調査II・

- I. 褐色土 (直径1cm程度の明褐色土粒子を含む)
- II. 黒褐色土 (明褐色土粒子を含む)
- III. 灰質褐色土 (直径3〜4cm程度の明褐色土ブロックを含む)
- IV. 黒褐色土 (明褐色土・灰質褐色土ブロックを含む)
- V. 褐色土 (明褐色土・灰質褐色土ブロックを含む)
- VI. 褐色土 (明褐色土ブロックを含む)

- I. 黒褐色土 (明褐色土粒子を含む)



第10図 柱穴・ビット状遺構実測図

III期に属する溝の延長であり、同じ方位をとる掘立柱建物、柱列、土壌墓も含め第3次調査II・III期に伴う遺構と考える。建物群から外れた位置に墳墓を配しているが、方位は規制を受けている。また、中世前半期の福岡平野において輸入陶磁器や利器が供献されない土壌墓は木棺墓も含めた土葬の形態をとる墳墓では稀である。野多目周辺の中世集落を営んだ階層を窺う上で良好な資料の一つとなろう。

先土器時代の遺構と出土遺物（第11～13図）

本調査では、標高13.5m強の新时期上部ロームの各時代・時期の遺構検出面で、先土器時代の可能性のある集石遺構を検出したほか、標高13.395～13.530mの暗黄褐色を呈する新时期上部ローム層中から39点の先土器時代の石器類が出土した。

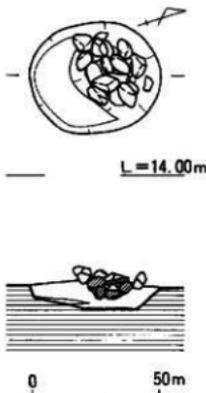
集石遺構は、調査区北東部のSX-03の南1.5m前後に位置し（第 図）、その東5m前後のローム層中から先土器時代の石器類が出土した。集石は、長軸1.02m、短軸0.85mを測る平面形楕円形を呈する土壌の上部にある。この土壌は、新时期上部ロームを埋土して10cm前後遺存しており、底はほぼ平坦で皿状をなし2段掘りになっている。この土壌の深い部分の上部に、10×5×5cm前後を測る20個前後の花崗岩の角礫を集積している。この遺構は検出時には炉と考えたが、石は火を受けておらず、炭・コールタールなどの付着もないため、土壌に角礫を集積していたものといえよう。本遺構は、新时期上部ロームの他時期の遺構検出面での検出であり、先土器時代のものと即断することはできないが、新时期上部ロームを埋土とすること、近くのローム層中から先土器時代の遺物が出していること、先土器時代の集石と近似していることなどから先土器時代のものである可能性が高いといえよう。

先土器時代の石器類は、39点が新时期上部ローム層中から出土し、6点が後出時代の遺物包含層から出土した。先土器時代の定型石器としては、ナイフ形石器文化期のナイフ形石器・台形土器と細石刃文化期の細石刃・母核があり、ローム中から出土した39点もナイフ形石器文化期のものと考えられるもの16点と細石刃文化期のもの23点が混在している。石器類の分布状態からみていくと細石刃文化期のものがより集中度が高く、出土量も多いことからナイフ形石器文化期の石器類は混在で、本調査検出の先土器時代の石器群は細石刃文化期に帰属するものと考えられる。

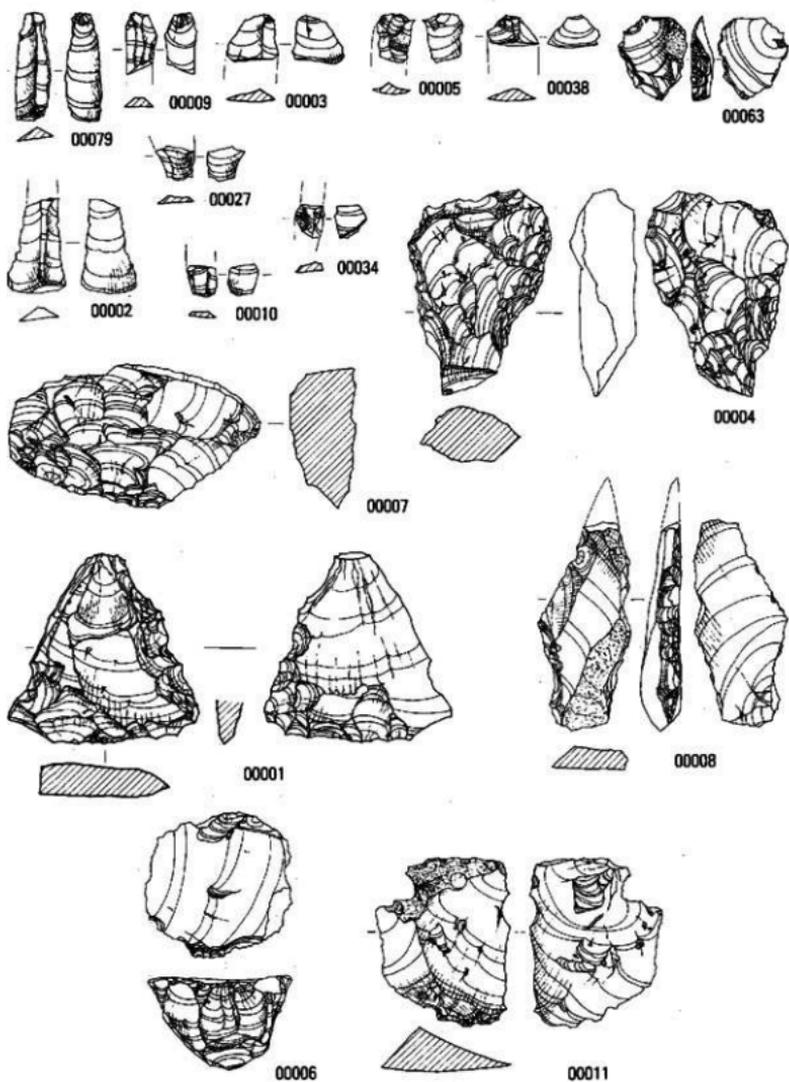
02・03・05・09・10・27・34・38・79の9点は黒曜石製の細石刃で79がもっとも遺存状態がよい。03・05・38は基部片、10・38は先端部片であり、反りがあるため基部と先端を折り廃棄したものか、07はハリ質安山岩製の剥片を素材とし、下縁辺から剥離加工を加え、平面形が木葉形で断面図が楔状をなすように整形し、上縁辺に槌状剥離を加え、細石刃剥出用の艦板面を造りだしている細石刃核の母核である。06は良質の漆黒の黒曜石を素材とした円錐形の石核で、幅1.2cm、長さ1.5cm前後の剥片を剥出している。福井洞穴第4層出土の石核と類似している。01は古銅輝石安山岩の剥片を素材とし、右側縁から先端に表裏から二次加工を加え鋭い刃を造りだしている削器で、細石刃文化期のものか。

04・63は黒曜石製の不定形剥片を素材とした台形石器で、04は両側縁に表裏から剥離加工を加え手台形に整形しており、63は両側縁に主要剥離面から刃潰加工を加え台形に整形している。08は乳白色の黒曜石製縦長剥片を素材としたナイフ形石器である。素材打面を基部として、一部素材縁辺を残し、右側縁辺と左側縁辺の基部よりに主要剥離面から刃潰加工を加えて整形している。11はハリ質安山岩製の剥片である。

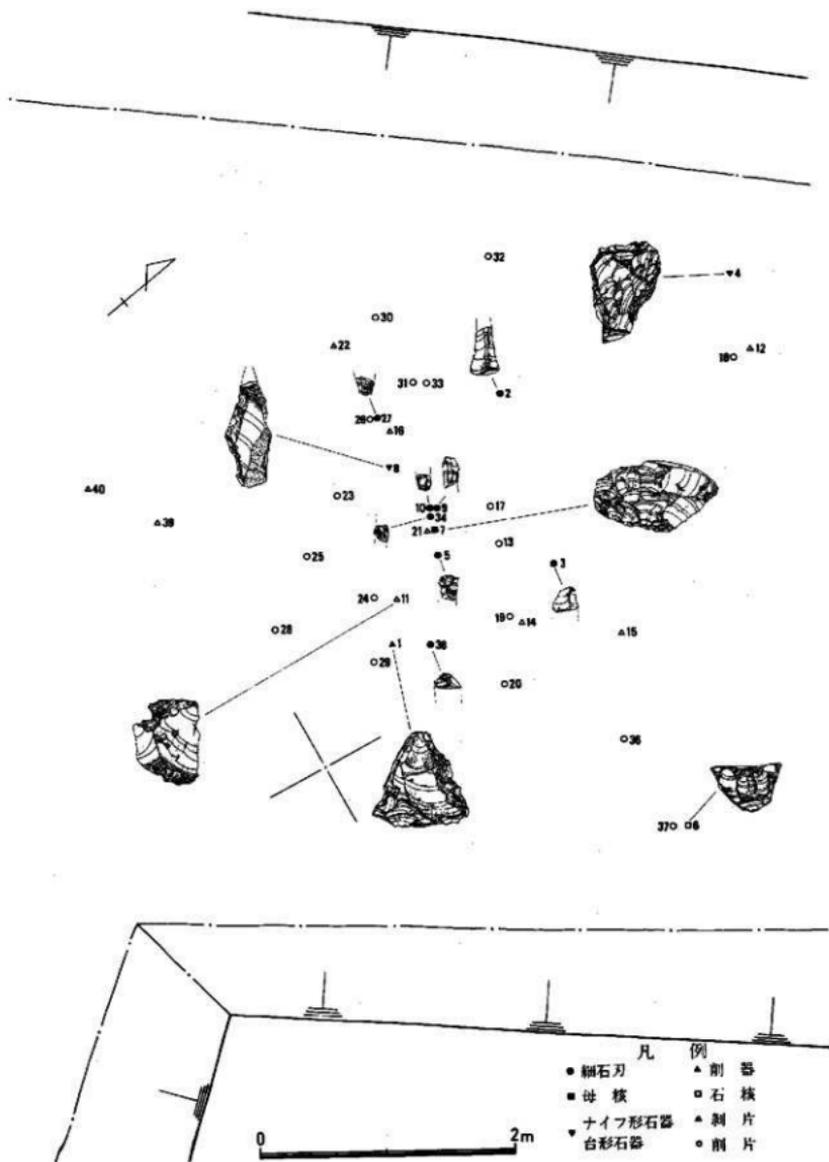
以上、本調査においては、標高13.4m強前後の暗黄褐色を呈する新时期上部ローム層中で細石刃文化期のの良好な石器群を検出した。この石器群は、細石刃母核から土器を共伴する細石刃文化期のものである可能性が高く、井尻B遺跡より後出のもので土器出現期前後のものであるといえよう。集石遺構も同時期のものか。



第11図 集石遺構実測図



第12圖 先土器時代石器実測圖



第13図 先土器時代遺物出土状況

野多目A遺跡第6次調査出土石器一覧表

登録番号	出土遺構	出来高(m)	器種名	石 材	法 量(m)			時 代	備 考
					器 長	器 幅	最 大 厚		
00001	新 期 上 部 ローム	13.510	削 期	古銅輝石安山岩	3.75	3.75	0.75	細石刀文化期?	
00002		13.465	磨 石 刀	黒 曜 石	1.90+α	1.10	0.20強	細石刀文化期	
00003		13.475	磨 石 刀?		0.95+α	1.00	0.25	細石刀文化期	
00004		13.530	凸 形 石 器	黒 曜 石	4.15	2.80	1.30	ナイフ型石器文化期	
00005		13.475	磨 石 刀	黒 曜 石	0.95	0.75+α	0.25	細石刀文化期	
00006		13.475	石刀核(内側)		1.85	2.90	—	細石刀文化期?	
00007		13.475	細石刀核母核	ハリ貫安山岩	2.75	4.85	1.40	細石刀文化期	
00008		13.445	ナイフ型石器	黒 曜 石	4.20+α	1.80	0.80	ナイフ型石器文化期	
00009		13.430	削 石 刀		1.30+α	0.60	0.20	細石刀文化期	
00010		13.520	削 片	黒 曜 石	0.70+α	0.60	0.20	細石刀文化期	
00011					3.40	2.30	1.05	ナイフ型石器文化期	
00012		13.430	削 片	黒 曜 石	1.40+α	2.25	0.30	ナイフ型石器文化期	
00013		13.465	削 片		2.05	1.40	0.20	細石刀文化期	
00014		13.485	削 片	黒 曜 石	0.70+α	1.15+α	0.15	細石刀核より剥出。細石刀文化期	
00015		13.460	削 片		2.25+α	2.65	0.75	ナイフ型石器文化期?	
00016		13.435	削 片	黒 曜 石	2.20	2.55	0.70	ナイフ型石器文化期?	
00017		13.490	削 片		3.10+α	1.35	0.35	ナイフ型石器文化期?	
00018		13.460	削 片	黒 曜 石	2.60	2.70	0.80	ナイフ型石器文化期	
00019		13.490	削 片		2.00	1.75	0.15	ナイフ型石器文化期	
00020		13.495	削 片	黒 曜 石	1.00	1.20	0.10	細石刀核より剥出。細石刀文化期	
00021		13.475	削 片		1.50+α	2.00	0.50	ナイフ型石器文化期	
00022		13.490	削 片	黒 曜 石	0.80+α	1.90	0.30	ナイフ型石器文化期	
00023		13.455	削 片		2.40	3.30	0.70	ナイフ型石器文化期	
00024		13.460	削 片	黒 曜 石	1.70	1.75	0.30	ナイフ型石器文化期	
00025		13.455	削 片		3.00	2.25	0.60	ナイフ型石器文化期?	
00026		13.455	削 片	ハリ貫安山岩	0.75	1.05	0.15	細石刀文化期?	
00027		13.435	磨 石 刀	黒 曜 石	0.70+α	0.80+α	0.10強	細石刀文化期?	
00028		13.435	削 片	古銅輝石安山岩	0.70	0.75	0.20	細石刀文化期?	
00029		13.450	削 片	黒 曜 石	1.75	0.95	0.25	ナイフ型石器文化期?	
00030		13.475	削 片	古銅輝石安山岩	1.00	1.30	0.10	細石刀文化期	
00031	13.395	削 片	黒 曜 石	1.60	1.10	0.50	細石刀文化期?		
00032	13.455	削 片	古銅輝石安山岩	2.10+α	1.90	0.10	細石刀文化期?		
00033	13.455	削 片		0.90	1.00	0.10	細石刀文化期?		
00034	13.505	磨 石 刀	黒 曜 石	0.65+α	0.60	0.20	細石刀文化期		
00036	13.430	削 片	ハリ貫安山岩	1.60	2.20	1.20	細石刀文化期?		
00037	13.450	削 片	黒 曜 石	0.65	0.30	0.05	細石刀文化期?		
00038	13.475	磨 石 刀?	黒 曜 石	0.60+α	1.00	0.25	細石刀文化期		
00039	13.510	削 片	ハリ貫安山岩	1.60	2.20	1.20	細石刀文化期?		
00040	13.510	削 片	黒 曜 石	1.50	1.80	0.60	ナイフ型石器文化期?		
00044				2.90	1.65	3.50			
00045	包含層	打 製 石 器	黒 曜 石	1.40+α	1.45+α	0.45	縄文時代?		
00046				1.15+α	0.80+α	0.10			
00059				2.10+α	2.05	0.40強			
00063				1.55	1.35	0.35		ナイフ型石器文化期	
00065				1.85	0.90	0.20		細石刀文化期	
00067				1.85	0.90	0.20		細石刀文化期	
00071	石 核	1.20	3.70		細石刀文化期				
00073	削 片	2.70	2.60	0.60	ナイフ型石器文化期				
00079	磨 石 刀	2.20	0.70	0.25	細石刀文化期				

圖 版



(1) 野多目 A 遺跡群第 6 次調査区全景 (南から)



(2) 野多目 A 遺跡群第 6 次調査区全景 (東から)



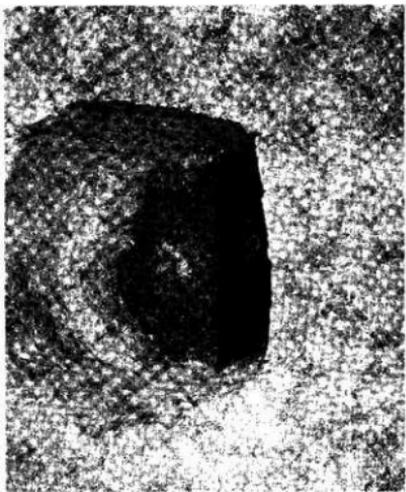
(1) 野多日遺跡群第6次調査区北東（西から）



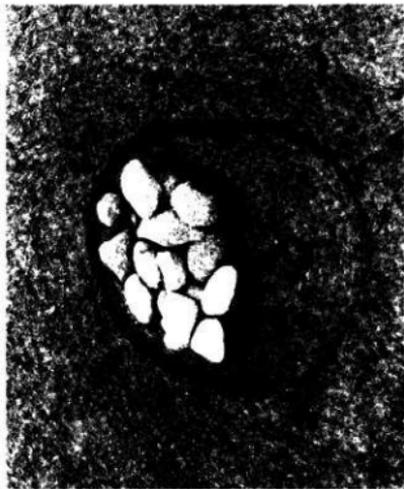
(2) SX 03 土壩基（南から）



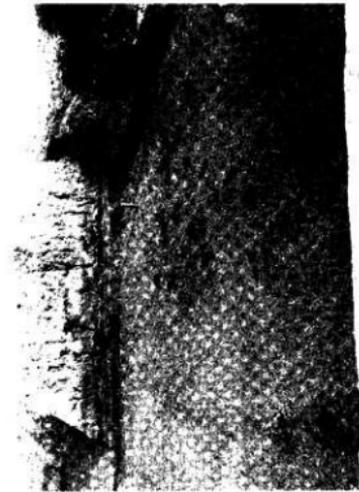
(1) 柱列 (南東から)



(2) 柱穴土層 (南西から)



(3) 集石遺構 (南から)



(4) 北田石積包層遺構 (北西から)

野多目 A 遺跡 5

—野多目 A 遺跡群第 6 次調査報告—

1999年（平成11年）3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8番34号
